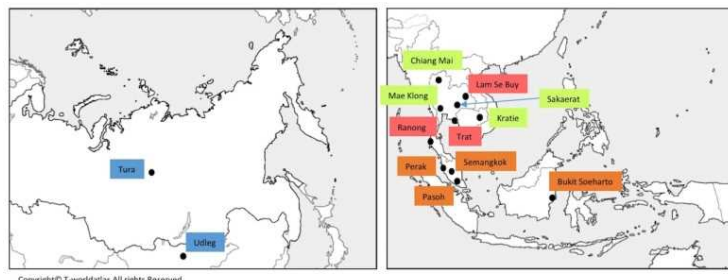


1. 観測の概要

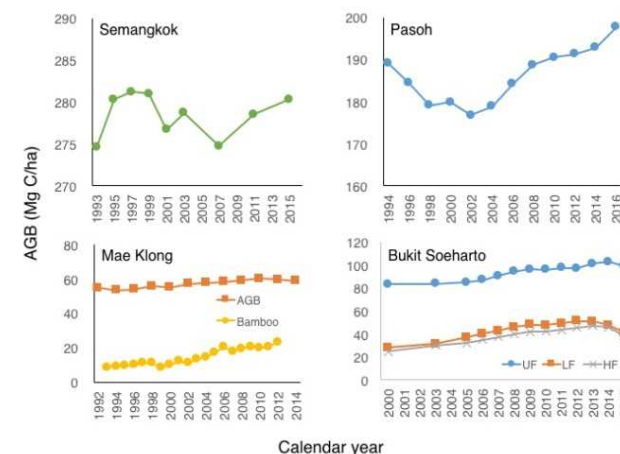
気候変動予測研究や森林炭素収支の変動把握に貢献するために、シベリアから熱帯域の多様な森林タイプを網羅する試験地群(6カ国14試験地)によるネットワークを構築し、森林の生態系炭素蓄積量に関連する長期観測を実施する。



ネットワークを構成する試験地群



炭素蓄積量把握のための野外調査の様子



長期観測から得られた炭素蓄積量の年々変動

2. 社会課題解決に対する効果

※ 観測事業の目的の範囲で活用された効果だけでなく、それ以外の目的に活用される可能性(他のデータとの組合せによる活用や民間による活用など)についても言及してください。

- REDD+における森林炭素モニタリング構築に適用可能な測定手法の開発に貢献
- 能力開発の実施による測定技術の普及

※ 「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」(平成27年8月25日地球観測推進部会決定)の8つの課題のうち、どの課題の解決に役立つかを明記してください。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/021-5/houkoku/1362066.htm

(①気候変動に伴う悪影響の探知・原因の特定, ②地球環境の保全と利活用の両立, ③災害への備えと対応, ④食料及び農林水産物の安定的確保, ⑤総合的な水資源管理の実現, ⑥エネルギーや鉱物資源の安定的な確保, ⑦健康に暮らせる社会の実現, ⑧科学の発展)

②地球環境の保全と利活用の両立

※ 第5期科学技術基本計画に掲げられた「Society 5.0」にどのように貢献するかを記載してください。

第5期科学技術基本計画に示された「地球規模の気候変動への対応」に基づき、多様な森林で炭素動態に関する観測技術の向上とデータ蓄積を通じて、Society 5.0構築に必要な基盤技術の強化に貢献している。さらに森林分野以外での情報活用が促進されるように「データ統合・解析システム(DIAS:Data Integration and Analysis System)」へのデータ供給を強化していく。